

# 競 技 注 意 事 項

## 1. 規 則

競技は 2026 年度（公財）日本陸上競技連盟規則及び本大会要項、申し合わせ事項によって行う。

## 2. 練 習

- ①練習は危険防止に十分注意して行う。競技場内もしくは競技場外園路とする。（公園側園路は禁止。）
- ②会場への投てき物の持ち込みは禁止とし、練習は現地集合完了後、役員の手指示により競技場で行う。
- ③トラック競技開始時刻の 15 分前までは競技場を開放する。
- ④フィールド競技の練習は、役員の手指示により競技場で行う。
- ⑤雨天走路は、ウォーミングアップ場として開放する。入退場は正面入り口のみとし、第 4 ゲートからの入場は禁止とする。また、雨天の場合は招集所となるため、ウォーミングアップ場としては開放しない。
- ⑥直線種目実施時は、バックストレートをウォームアップ場として開放する。ただし、ダッシュマーカールレーバトン以外の用具の使用は認めない。

## 3. 招 集

- ①招集は競技者係の手指示に従い、本人が受けること。
- ②招集時間および完了時間は下記の通りとする。

| 種 目         |             | 招集開始時刻   | 招集完了時刻   |
|-------------|-------------|----------|----------|
| トラック競技      |             | 競技開始30分前 | 競技開始15分前 |
| フィールド<br>競技 | 走高跳・走幅跳・砲丸投 | 競技開始45分前 | 競技開始30分前 |
|             | 棒高跳・円盤投     | 競技開始60分前 | 競技開始45分前 |

- ③招集完了時刻（移動開始時刻）に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権とみなして処理する。
- ④競技者は、招集開始時刻から招集所において最終確認を受ける。その際、アスリートビブス、競技用シューズ、衣類の点検を受け、招集完了後に移動開始する。
- ⑤トラック種目の競技者は、競技者係から腰ナンバーカードを受け取り、右腰部につけること。（リレー競技は第 4 走者のみ）
- ⑥出場する種目を棄権する場合、招集開始時刻までに、競技者係（招集所）に申し出ること。
- ⑦複数種目を兼ねて出場する場合には、その旨を競技役員に申し出ること。
- ⑧ウォーミングアップ中のケガ等により棄権をする場合には TIC に棄権届を提出すること。

## 4. 入 退 場

- ①招集が完了した者は、スタート地点（ピット）に荷物をもって移動する。
- ②トラック競技はレース終了後、第 1 ゲートから退場するか、器具庫から室内を通り正面玄関から退場する。（本部前は競技役員の手指示がない限り、通行することはできない。）
- ③フィールド競技は、終了後競技役員の手指示に従い、フィールドから退場する。
- ④競技終了後、腰ナンバーカードをゴール地点にあるカゴに入れる。

## 5. アスリートビブス

- ①選手は JAAF 登録されたアスリートビブスを使用する。
- ②アスリートビブスは胸（腹ではない）と背に、しわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。ただし、跳躍競技については 1 枚を胸または背のどちらかにつけるだけでもよい。

## 6. トラック競技について

すべての種目をタイムレースにて実施する。

## 7. フィールド競技について

- ①走高跳・棒高跳を除くフィールド競技は 3 回の試技を行い、順位を決定する。
- ②複数種目を兼ねて出場する場合には、その旨を競技者係及び該当競技役員に申し出、その指示に従うこと。ラウンド中の試技順の変更は当該競技役員の手指示によるが、次のラウンドに移った場合は、パス扱いとする。申し出を怠った競技者は棄権とみなす。
- ③棒高跳支柱移動申告について、競技者は競技開始 30 分前までに当該審判員に希望する支柱の位置申告をすること。もし、競技者がその位置を変更したい時は直ちに当該審判員に申告すること。
- ④走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。ただし、審判長の手指示によって変更する場合もある。

|         | 練習        | 1    | 2    | 3    | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    |  |
|---------|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
| 中学男子走高跳 | 1m10/1m40 | 1m20 | 1m25 | 1m30 | 1m35 | 1m40 | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 中学男子は<br>180cm以降<br>中学女子は<br>145cm以降<br>3cmずつ上げる |
| 中学女子走高跳 | 1m00/1m30 | 1m10 | 1m15 | 1m20 | 1m25 | 1m30 | 1m35 | 1m40 | 1m45 |  |
| 中学男子棒高跳 | 2m00/2m50 | 2m00 | 2m20 | 2m30 | 2m40 | 2m50 | 2m60 | 2m70 | 2m80 | 以降<br>10cmずつ                                     |
| 中学女子棒高跳 | 1m40/2m00 | 1m60 | 1m80 | 2m00 | 2m10 | 2m20 | 2m30 | 2m40 | 2m50 |  |

#### 8. 競技からの除外

競技運営上必要と認めた場合、審判長がレース中の競技者を中止させることがある。

#### 9. リレー競技について(リレーオーダー用紙は TIC に準備)

- ①リレー競技に出場するチームはラウンド毎に、リレーオーダー用紙を1部作成し、**招集完了時刻の60分前までに TIC に提出すること。**(顧問のサインを忘れないこと)
- ②招集は各スタート場所で行う。
- ③リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用することが望ましい。
- ④**バトンとダッシュマーカーは、主催者側で用意したものを使用する。**(バトンは第1走者のみ)

#### 10. 用器具

- ①棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。
- ②投擲物の重さは以下の表に準ずる。

| 種目  | 区分     | 重さ       |
|-----|--------|----------|
| 砲丸投 | 中学共通男子 | 5.000 kg |
|     | 中学共通女子 | 2.721 kg |
| 円盤投 | 中学共通男子 | 1.500 kg |
|     | 中学共通女子 | 1.000 kg |

- ③スパイクの長さは、走高跳は12mm、その他は9mm以下とする。
- ④シューズ(スパイク・ランニングシューズを含む)の厚さについての今大会の規定は以下の表に準ずる。

| 種目                | TR5.2                                  | 要件・備考                    |
|-------------------|--|--------------------------|
| トラック種目<br>フィールド種目 | スパイクシューズ<br>または ノンスパイクシューズ<br><br>20mm | 砲丸投、円盤投についてはこの規定の限りではない。 |

#### 11. 番組編成及び結果発表

- ①各種目の番組編成及び結果発表は、アナウンスで行わず、競技場正面入り口外の掲示スペースにて掲示する。
- ②各種目の入賞は8位までとし、賞状を授与する。(競技終了後、アナウンス室へ取りに来ること)

#### 12. 抗議

日本陸上競技連盟競技規則 TR8 による。

#### 13. 表彰について

- ①個人表彰は、対抗の部の1位～8位まで賞状を授与する。

#### 14. その他

- ① プログラム記載事項に訂正がある場合は、顧問が取りまとめ、競技役員打ち合わせ開始前までに訂正内容を持って本部まで申し出ること。
- ② セパレートレーンを使用する競技においては、フィニッシュ後は該当レーンに沿って走り抜けること。
- ③ 競技場内外のアスファルト部分へスパイクで入らないこと。また、競技場内の芝生内やスタート位置後方、フィニッシュ位置前方に立ち入らないこと。
- ④ 競技中に発生した事故などについては主催者側で応急処置を行うが、以後の責任は負わない。た、体調が悪くなった者は医務員の指示に従うこと。
- ⑤ 更衣室では更衣のみを行い、私物等を置かないこと。
- ⑥ 各自の持ち物については自分自身で責任をもって管理し、盗難に注意すること。
- ⑦ 大会主催者から指定された場所以外での陣地設営は禁止する。

- ⑧ 競技場内の陣地設営は芝生スタンド内とする。
- ⑨ テントやタープは、ロープなどを使って手すりなどに固定し、強風で飛ばないようにすること。
- ⑩ 横断幕を設置する場合は、メインスタンド最上段の手すりのみとする。
- ⑪ のぼりを設置する場合は、メインスタンドサイド階段フェンス部分のみとする。
- ⑫ スターターより「ON YOUR MARKS」がかかったら、選手が集中できるように競技場全体で音を出さないように配慮すること。 スタートの付近では特に気をつけること。
- ⑬ スタート動作において遅延行為があった場合、1回目は「注意（グリーンカード）」、2回目は「警告（イエローカード）」、3回目は「失格（レッドカード）」とする。ただし、遅延行為の回数については、個人についてカウントするものとする。また、「警告」や「失格」については、同一種目に持ち越すものとする。
- ⑭ 競技者が号砲前にグラウンド（地面）及びフットプレートから手や足を離した場合、不正スタート（フライング）となり、当競技者は失格となる。
- ⑮ 熱中症予防対策として、日本スポーツ協会が定める熱中症予防運動指針に従い、WBGT31℃を超えた場合には競技を中断し、本部で協議する。原則としてWBGT31℃以下になるまで競技は中断とし、中断時間が2時間を超える場合には本大会の以後の競技については中止とする。
- ⑯ 生徒による携帯電話・スマートフォン・ビデオカメラ・音楽再生機器等の電子機器の使用は禁止とする。
- ⑰ 保護者の撮影はメインスタンドのみ可とする。スタンドで立ち上がって撮影する場合はスタンド最上段からのみとする。なお、棒高跳に関してはバックストレート側テニスコート脇園路からの撮影とする。
- ⑱ 顧問による撮影は指導に生かすための撮影のみ可とする。